



豊かな体験が「手応え」を生み出す

校長 寶來 生志子



12月21日、東京パラリンピックのブラインドサッカー日本代表である黒田智成さんが恩田小学校に来てくださいました。

5年3組が総合的な学習の時間で取り組んでいるパラスポーツについて、現役のパラリンピアンから学びたいという思いが実現したのです。6時間目は希望するクラスの子どもたちも参加し、お話を伺ったり一緒にブラインドサッカーをやったりする時間となりました。参加した子どもたちの感想の一部を紹介します。



- ☆私はこの日をずっと楽しみにしていました。ドリブルシュートでも黒田さんは迷わずにコーラーの声を聞いてゴールしていたのでやっぱりすごいなと思いました。「これからの目標は、私より年下の子に今まで私がした事を教えて上手な選手になってほしい」と言っていました。黒田さんはいい人だなと思いました。目標を達成してほしいです。
- ☆黒田さんは目が見えていないのにあのすごさっていうのは、たくさん努力したからだと思う。他の人と少し違っても頑張ることができるって教えてもらった気がします。
- ☆今日は最高でした。握手したときに「この手を洗わないぞ!」と思いました。今日の交流会からぼくはブラインドサッカーをもっと上手になりたいことと目が不自由な人を助けたいと思いました。

子どもたちが感じた充実感や達成感、自己有能感や一体感は「手応え」となり、次も頑張ろうという意欲になります。このような体験を何度も繰り返すことで態度化されます。そして、粘り強さや少々困難なことがあっても乗り越えていける「学びに向かう力」になると言われています。

新しい年を迎えました。今年も、恩田小学校の一人ひとりの子どもたちが「これをやった!」という記憶に残るような豊かな体験、価値ある体験ができるよう、学校・家庭・地域にいる大人が支えていきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いたします。